

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園 ユニット名1棟		
所在地	塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	令和 3 年	9 月	8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年	10 月	12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝礼時、経営理念・基本理念と当月の介護の重点(職員持ち回りで考案)の唱和を参加者全員で行い、介護職員のチームケアの意識を高めている。また月ごとに様々な行事・ボランティアの慰問を企画して入居者様に参加してもらい、季節の移り変わりを感じながら、楽しんでもらえるように努力しているが、現在新型コロナウイルスの影響でボランティアの慰問は自粛している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立21年目となる「グループホーム小松崎あさひ園」は、塩竈神社の北にあり市立第2小学校側の南西にある。住宅が密集する地域ではあるが起伏の激しい高台にあり、隣接する隣家はない。木造平屋建てで、全館床暖房とエアコンを完備している。基本理念に「その人、ひとり一人と向き合い「気づきの力を高めます」など5項目を掲げ、職員の処し方を示している。今年4月末に管理者が代わったところで、「誠意をもって、丁寧なケアを行っていきたい」との抱負を述べている。入居者の自分で出来ることを大切に、出来ないことを経験豊かな全職員で支えている。日々交わす入居者との対話を大切に介護をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 小松崎あさひ園 )「ユニット名 1棟ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に基本理念と今月の介護の重点の唱和を行い、職員全員で理念の共有とチームケアの意識向上に努めている。	「介護の重点」は「日々の変化に気を付けましょう」など、月毎に職員が輪番で作成している。介護の際に何が大事か、日頃のケアを振り返ることで重点目標が作られ、職員へのメッセージにもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏場に行うバーベキュー大会では、利用者様のご家族だけでなく、ご近所の方にも参加を呼び掛けている。また、町内会に入り、市民清掃や夏祭りなどに参加し、地域の一員としての認識を持っている。	地域行事への参加やホーム行事へのお誘い等は、コロナウイルス対策として自粛している。受診の付き添いにシルバーセンターの人材を活用する家族があり、地域資源の活性になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の正しい理解をして頂けるよう呼びかけている。会議に参加していない地域の方にも理解して頂けるような取り組みが今後必要だと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、構成員の方々に園の活動を報告し、それに対する意見交換を行う場に行っている。行政や地域の方の意見をサービスに反映できるよう取り組んでいるが、現在は、コロナの影響で中止している。	新しい管理者になってからは、2か月毎に書面会議として実施している。メンバーには、入居者の状況報告を資料として送付し、感想や要望、助言の返信をもらっている。コロナ禍における対応を評価する意見が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加している。行政や、他事業所との情報交換の場所になっている。	ホームの重要事項説明書に載せた相談窓口、市内全域の地域包括支援センターを明記している。ケアマネジャーの、認知症に関する研修会にオンラインで参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で勉強会を行い、職員の意識付けや、拘束しないケアを実践できるようにしている。玄関の施錠は防犯の為に引き、外出したい入居者様には外出支援を行っている。	全職員で構成する「身体拘束廃止検討委員会」がある。勉強会も委員会の中で実施している。危険がない限り自由に行動してもらうことを話し合った。買い物や散歩など、本人から希望があればウイルス感染予防に配慮しながら出来ることは対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、3ヶ月に一度、虐待防止の勉強会を行い、意識して虐待防止に努めている。不適切なケアが虐待につながることを職員は理解できている。	管理者は「虐待防止に関する責任者」になっている。車いすの速度は本人感覚を大切にすることや、介助前には本人の了解を得ることなど確認し共有している。管理者は職員の心身に配慮した声かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、外部研修に参加し、参加した職員が先生役になり、社内のマニュアルを使用した研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時のご家族への説明は十分時間をとっている。ご理解・納得頂いた上で契約、解約頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回家族会を開催し、園での活動を報告している。行事などではご家族にも意見を頂き、アイデアを参考にさせて頂いている。	家族会は現在は中止になっている。面会は禁止となっているが、ワクチン接種完了の家族は玄関のガラス戸越しに会うことが出来る。電話での受診報告や介護計画書説明の際に意見を聞くが「任せます」の声が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の経営会議では、運営会社役員と管理者が参加し、職員の意見の吸い上げを図っている。	年間行事に沿って、行事内容を検討する職員のアイデアが実践されている。入居者が喜ぶ行事食の提案にも力が入る。「バーベキューセットが欲しい」や「床の修繕が必要」などが反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営会議では、直接、現状の報告をうけることで職場環境の把握を行っている。商工会議所の永年勤続表彰制度と社内の永年勤続制度を設け、やりがいの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加できるよう申し込みを行っている。研修に参加した職員はレポートの提出と職員会議での発表をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会しており、ブロック集会などで交流している。	地域ケア会議に参加し、困難事例を聞いたり家族の体験談を聞くなどして、職場でも活かせる内容だった。法人の経営会議で同席した他職員とその後交流している。病院の相談室で入退院の助言をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査の際、定期的なカンファレンスや日々の関わりの中で、ご本人の思いを汲めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを図り思いや要望を把握できるようにしている。センター方式を利用して困っていることを分析し、不安の早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意向、ご家族の意向は必ず伺うようにしている。また提供サービスが職員本位になっていないか確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事はご本人でやって頂けるように、出来ないところはヒントを出し、無理強いにならないようにしている。家事などは新しい職員に、やり方を教えて頂く機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の家族から昔の生活について教えていただいたり、園での生活ぶりをお手紙でお知らせして、ご家族と入居者様の距離が遠くならないようにしている。協力して頂ける部分はご家族にお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人には積極的に面会して頂くようお願いをしている。なかなか来られない方にはお手紙などで近況報告したり、面会の声掛けをするなど疎遠にならないようにしている。昔からの友人が訪ねて来られるケースもある。	定期で来訪する理容師は、入居者と親子のように親密になっている。馴染みの理容室に行く人もいる。入居前の生活歴を活かし、お気に入りの店から購入した沢庵や郷土料理のがんづきなどを食卓に出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様との関係作りがなかなかできない入居者様には、職員が間に入り、馴染みの関係が作れるようお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去された方へのお見舞いや亡くなった方へのお悔やみに行くこともある。退去後も相談したり、関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言やバックグラウンドから、また、センター方式を活用して、思いや、意向の把握に努めている。相手の立場にたって物事を考えるようにしている。	その時の本人のやりたいことを見守り、無理強いしないケアを共有している。「服の着方が分からない」や「部屋が分からない」など、本人の悩みを把握して側に寄り添い安心して過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業者からの情報やご家族からの情報を提供して頂き、生活が激変する事がないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と入浴前にバイタル測定し、体調のチェックを行っている。言動をケース記録に記入し心身の状態を把握するようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、ご本人の言動を参考にしたり、ご家族の意向をお聞きし、意向に沿ったケアの話し合いをしている。	24時間シートを用いた経過記録を、ケアマネジャーが分析し、やるべきケアを見出した計画書の原案を担当者会議で検討している。家族意向の「出来ることさせて」「役割をもってもらう」ことをケアの方向性とした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアは出来るだけ詳細に記録しているが、気づきや工夫に関して職員の能力にばらつきがある。ケース記録の変更を実施したりユニット長を中心に見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で変わるニーズに対し、状況判断できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援ボランティアの受け入れ、他事業所の行事、市の防災訓練への参加をしている。運営推進会議で町内会の方と情報交換をしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と相談して決めており、月1回を目安に受診できるようにしている。受診記録を記入し、情報共有している。	それぞれ希望するかかりつけ医を受診している。受診同行が困難な家族には、付き添い人材や訪問医療を紹介している。入居者の状態急変時は各主治医に相談し、指示を仰いでいる。訪問歯科の利用もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないので、往診医やかかりつけ医に、体調の変化がみられた場合には連絡し、指示とアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は今までの経過を伝え、完治したうえで早期に退院できるよう、ご家族や、病院と密に連絡を取り合うようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する事を契約書に明記し、入居者様の変化に備えている。あさひ園での看取りを希望される場合、十分話し合いをし、往診医、訪問看護師と連携しながらチームケアを行っている。	「重度化(看取り)対応に関する指針」があり、尊厳あるターミナルケアを目指している。「終末期の希望」を個人台帳に記録し、「延命措置はしない」など家族の意向を把握している。指針には、医師の知見による判断とすることや訪問看護師との連携等がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意している。年1回救命救急講習を受講し、緊急時に落ち着いて行動できるよう努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の全体会議では、火災もしくは地震を想定した、勉強会を行っている。法定消防訓練は年2回行っている。	6月に通報や消火、避難の総合訓練を行った。「消防訓練実施要綱」の行動指示に従って実行し、「声を掛け合って誘導できた」等振り返りを行っている。夜間想定での訓練はなかった。	入居者の生命を守るための有効な訓練の1つが夜間想定での避難行動である。夜間時における避難路の確保や入居者の状態に合わせた避難の仕方など訓練して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議、ユニットでの話し合いの中でも、言葉遣いや尊厳、誇り、プライバシーを守るケアはどういうものか考え、統一したケアを目指している。	呼んで欲しい名前の呼び方や汚れた衣類の交換時の誘い方など、丁寧にゆっくり「お願いする」声かけをするよう気を付けている。「アセスメントのための情報シート」で既往症や身体状況を把握し、ケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる声掛けをし、難しい方には選んで頂けるような支援をしている。仕草やそぶりを見逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、ゆったり生活が出来るように支援している。外出など、入居者様の要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後整容をすすめ、洋服も選んで頂くようにしている。化粧をすることが日課だった方には化粧をすることなどをお勧めしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様の体調や気分、要望を聞きながら提供している。調理や、配膳などを職員と一緒にできるように支援している。	配食業者を利用している。行事用メニューは数種から選ぶことができ、土用の丑の日の鰻や敬老の日は天ぷらそばと炊き込みご飯など楽しんでいる。誕生日には、カレーライスや寿司など本人の要望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平成30年11月より、ケータリングを導入、バランスのとれた食事の提供が出来るようにしている。食事量や水分量が少ない時は高栄養補助食品やゼリーなどを勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、訪問歯科検診をしている。訪問歯科医より口腔ケアが行き届いているとの話がある。その方に合った方法で口腔ケアをさせて頂いており、食後は口腔ケア、夕食後は義歯の消毒洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の方法がご本人に合っているか検討し、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう支援している。	人形の腹をなでる行為や目的なく歩き回る、言動が乱暴になるなどのサインを捉えてトイレに誘導している。不安からおむつ替えを拒否する入居者には、笑顔で説明し信頼を得てから行うなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜を多く取り入れたり、午前中ラジオ体操を行っている。排便の記録をとり、必要に応じて下剤を使用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々におうじた支援をしている	入居者様の希望する時間帯に入れるよう声をかけるように努めている。基本的には2日おきだが希望があればいつでも入浴ができる。	入浴前にバイタルチェックを行い、午前中に入浴している。浴槽には滑り止めマットを使用している。拒む人には時間を空けたり、香りで誘う入浴剤を使っている。脱衣時には、羞恥心に配慮した声がけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や廊下に室温計を設置し、快適な温度で休んで頂けるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で一人一人の薬の作用、副作用を把握し、内服時は職員2人でダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる事を見出し、調理や洗濯物たたみ等をして頂いている。買い物やドライブの好きな方はもちろん、外出嫌いな方にも強制にならないよう配慮しながらお誘いしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ、ドライブや買い物などに出かけられるよう声掛けをしている。	現在はウイルス感染対策で、法人の意向もあり外出を自粛している。家族と通院時に自宅に寄ったり、多賀城のあやめ園にドライブするなど、感染予防対策をしたうえで出来ることに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、盗難などを防ぐため、保管は職員で行っている。使用したい時はいつでも出せる体制にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙のやり取りを行っている方は1名おり、電話をかけたい方には随時対応し、希望に沿えるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないよう、ほとんど模様替えはしない。園の庭には季節の花や、野菜を植えている。また、温湿度、換気にも気を付けている。	全館床暖房になっており、エアコンで暑さを調整している。午前と午後到天窓の自然換気を行っている。食堂から見える庭には、コスモスや松葉牡丹など季節を感じる花々を植えている。木製のベランダに椅子を並べて日向ぼっこをすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には長椅子をおきそでくつろがれたり、居室に招きあつたりしている様子がある。居心地のいい環境を作るよう心掛けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染みの家具、寝具などを持ってきていただく。写真や遺影なども積極的に持ってきていただき、居心地のいいようにレイアウトして頂いている。	各居室にナースコールが設置されている。自室には、位牌を置き茶と水を供えたり、テレビを見たり、手紙を書く、横になるなど、思い思いに過ごしている。夜間には、定時でのパッドの確認やトイレ誘導などしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる」「わかる」の判断が出来るよう職員のスキルアップが必要である。自分でできる事はして頂けるよう、職員は見守りをし、何でも介助しないことも必要であることを意識付けしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園 ユニット名2棟		
所在地	塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	令和 3年 9月 8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 10月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝礼時、経営理念・基本理念と当月の介護の重点(職員持ち回りで考案)の唱和を参加者全員で行い、介護職員のチームケアの意識を高めている。また月ごとに様々な行事・ボランティアの慰問を企画して入居者様に参加してもらい、季節の移り変わりを感じながら、楽しんでもらえるように努力しているが、現在新型コロナウイルスの影響でボランティアの慰問は自粛している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立21年目となる「グループホーム小松崎あさひ園」は、塩竈神社の北にあり市立第2小学校側の南西にある。住宅が密集する地域ではあるが起伏の激しい高台にあり、隣接する隣家はない。木造平屋建てで、全館床暖房とエアコンを完備している。基本理念に「その人、ひとり一人と向き合い「気づきの力を高めます」など5項目を掲げ、職員の処し方を示している。今年4月末に管理者が代わったところで、「誠意をもって、丁寧なケアを行っていきたい」との抱負を述べている。入居者の自分で出来ることを大切に、出来ないことを経験豊かな全職員で支えている。日々交わす入居者との対話を大切に介護をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 小松崎あさひ園 )「ユニット名 2棟ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に基本理念と今月の介護の重点の唱和を行い、職員全員で理念の共有とチームケアの意識向上に努めている。	「介護の重点」は「日々の変化に気を付けましょう」など、月毎に職員が輪番で作成している。介護の際に何が大事か、日頃のケアを振り返ることで重点目標が作られ、職員へのメッセージにもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏場に行うバーベキュー大会では、利用者様のご家族だけでなく、ご近所の方にも参加を呼び掛けている。また、町内会に入り、市民清掃や夏祭りなどに参加し、地域の一員としての認識を持っている。	地域行事への参加やホーム行事へのお誘い等は、コロナウイルス対策として自粛している。受診の付き添いにシルバーセンターの人材を活用する家族があり、地域資源の活性になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の正しい理解をして頂けるよう呼びかけている。会議に参加していない地域の方にも理解して頂けるような取り組みが今後必要だと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしているが、現在は、コロナの影響で中止している	2か月に1回開催し、構成員の方々に園の活動を報告し、それに対する意見交換を行う場に行っている。行政や地域の方の意見をサービスに反映できるよう取り組んでいる。	新しい管理者になってからは、2か月毎に書面会議として実施している。メンバーには、入居者の状況報告を資料として送付し、感想や要望、助言の返信をもらっている。コロナ禍における対応を評価する意見が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加している。行政や、他事業所との情報交換の場所になっている。	ホームの重要事項説明書に載せた相談窓口、市内全域の地域包括支援センターを明記している。ケアマネジャーの、認知症に関する研修会にオンラインで参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で勉強会を行い、職員の意識付けや、拘束しないケアを実践できるようにしている。玄関の施錠は防犯の為に、外出したい入居者様には外出支援を行っている。	全職員で構成する「身体拘束廃止検討委員会」がある。勉強会も委員会の中で実施している。危険がない限り自由に行動してもらうことを話し合った。買い物や散歩など、本人から希望があればウイルス感染予防に配慮しながら出来ることは対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待防止の勉強会を行い、意識して虐待防止に努めている。不適切なケアが虐待につながることを職員は理解できている。	管理者は「虐待防止に関する責任者」になっている。車いすの速度は本人感覚を大切にすることや、介助前には本人の了解を得ることなど確認し共有している。管理者は職員の心身に配慮した声がけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、外部研修に参加し、参加した職員が先生役になり、社内のマニュアルを使用した研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時のご家族への説明は十分時間をとっている。ご理解・納得頂いた上で契約、解約頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回家族会を開催し、園での活動を報告している。行事などではご家族にも意見を頂き、アイデアを参考にさせて頂く事もある。	家族会は現在は中止になっている。面会は禁止となっているが、ワクチン接種完了の家族は玄関のガラス戸越しに会うことが出来る。電話での受診報告や介護計画書説明の際に意見を聞くが「任せます」の声が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の経営会議では運営会社役員と管理者が参加し、職員の意見の吸い上げを図っている。	年間行事に沿って、行事内容を検討する職員のアイデアが実践されている。入居者が喜ぶ行事食の提案にも力が入る。「バーベキューセットが欲しい」や「床の修繕が必要」などが反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会社役員が朝礼に参加し、直接、現状の報告をうけることで職場環境の把握を行っている。商工会議所の永年勤続表彰制度と社内の永年勤続制度を設け、やりがいの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加できるよう申し込みを行っている。研修に参加した職員はレポートの提出と職員会議での発表をしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会しており、ブロック集会などで交流している。	地域ケア会議に参加し、困難事例を聞いたり家族の体験談を聞くなどして、職場でも活かせる内容だった。法人の経営会議で同席した他職員とその後交流している。病院の相談室で入退院の助言をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や実態調査の際、定期的なカンファレンスや日々の関わりの中で、ご本人の思いを汲めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを図り思いや要望を把握できるようにしている。センター方式を利用して困っていることを分析し、不安の早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意向、ご家族の意向は必ず伺うようにしている。また提供サービスが職員本位になっていないか確認するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事はご本人でやって頂けるように、出来ないところはヒントを出し、無理強いにならないようにしている。家事などは新しい職員に、やり方を教えて頂く機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の家族から昔の生活について教えていただいたり、園での生活ぶりをお手紙でお知らせして、ご家族と入居者様の距離が遠くならないようにしている。協力して頂ける部分はご家族にお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人には積極的に面会して頂くようお願いをしている。なかなか来られない方にはお手紙などで近況報告したり、面会の声掛けをするなど疎遠にならないようにしている。昔からの友人が訪ねて来られるケースもある。	定期で来訪する理容師は、入居者と親子のように親密になっている。馴染みの理容室に行く人もいる。入居前の生活歴を活かし、お気に入りの店から購入した沢庵や郷土料理のがんづきなどを食卓に出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様との関係作りがなかなかできない入居者様には、職員が間に入り、馴染みの関係が作れるようお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去された方へのお見舞いや亡くなった方へのお悔やみに行くこともある。退去後も相談したり、関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言やバックグラウンドから、また、センター方式を活用して、思いや、意向の把握に努めている。相手の立場にたって物事を考えるようにしている。	その時の本人のやりたいことを見守り、無理強いしないケアを共有している。「服の着方が分からない」や「部屋が分からない」など、本人の悩みを把握して側に寄り添い安心して過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービス事業者からの情報やご家族からの情報を提供して頂き、生活が激変する事がないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と入浴前にバイタル測定し、体調のチェックを行っている。言動をケース記録に記入し心身の状態を把握するようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、ご本人の言動を参考にしたり、ご家族の意向をお聞きし、意向に沿ったケアの話し合いをしている。	24時間シートを用いた経過記録を、ケアマネジャーが分析し、やるべきケアを見出した計画書の原案を担当者会議で検討している。家族意向の「出来ることさせて」「役割をもってもらう」ことをケアの方向性とした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアは出来るだけ詳細に記録しているが、気づきや工夫に関して職員の能力にばらつきがある。ケース記録の変更を実施したりユニット長を中心に見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で変わるニーズに対し、状況判断できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援ボランティアの受け入れ、他事業所の行事、市の防災訓練への参加をしている。運営推進会議で町内会の方と情報交換をしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と相談して決めており、月1回を目安に受診できるようにしている。受診記録を記入し、情報共有している。	それぞれ希望するかかりつけ医を受診している。受診同行が困難な家族には、付き添い人材や訪問医療を紹介している。入居者の状態急変時は各主治医に相談し、指示を仰いでいる。訪問歯科の利用もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないので、往診医やかかりつけ医に、体調の変化がみられた場合には連絡し、指示とアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は今までの経過を伝え、完治したうえで早期に退院できるよう、ご家族や、病院と密に連絡を取り合うようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書に明記し、入居者様の変化に備えている。あさひ園での看取りを希望される場合、十分話し合いをし、往診医、訪問看護師と連携しながらチームケアを行っている。	「重度化(看取り)対応に関する指針」があり、尊厳あるターミナルケアを目指している。「終末期の希望」を個人台帳に記録し、「延命措置はしない」など家族の意向を把握している。指針には、医師の知見による判断とすることや訪問看護師との連携等がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意している。年1回救命救急講習を受講し、緊急時に落ち着いて行動できるよう努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回火災もしくは地震を想定し、訓練を行っている。年1回、運営推進会議の構成員に避難訓練への参加をお願いしている。法定消防訓練は年2回おこなう。	6月に通報や消火、避難の総合訓練を行った。「消防訓練実施要綱」の行動指示に従って実行し、「声を掛け合って誘導できた」等振り返りを行っている。夜間想定での訓練はなかった。	入居者の生命を守るための有効な訓練の1つが夜間想定での避難行動である。夜間時における避難路の確保や入居者の状態に合わせた避難の仕方など訓練して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議、ユニットでの話し合いの中でも、言葉遣いや尊厳、誇り、プライバシーを守るケアはどういうものか考え、統一したケアを目指している。	呼んで欲しい名前の呼び方や汚れた衣類の交換時の誘い方など、丁寧にゆっくり「お願いする」声かけをするよう気を付けている。「アセスメントのための情報シート」で既往症や身体状況を把握し、ケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる声掛けをし、難しい方には選んで頂けるような支援をしている。仕草やそぶりを見逃さないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、ゆったり生活が出来るように支援している。外出など、入居者様の要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後整容をすすめ、洋服も選んで頂くようにしている。化粧をすることが日課だった方には化粧をすることなどをお勧めしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様の体調や気分、要望を聞きながら提供している。調理や、配膳などを職員と一緒にできるように支援している。	配食業者を利用している。行事用メニューは数種から選ぶことができ、土用の丑の日の鰻や敬老の日は天ぷらそばと炊き込みご飯など楽しんでいる。誕生日には、カレーライスや寿司など本人の要望を叶えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に委託し献立の点検をしており、バランスのとれた食事の提供が出来るようにしている。食事量や水分量が少ない時は高栄養補助食品やゼリーなどを勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、訪問歯科検診をしている。訪問歯科医より口腔ケアが行き届いているとの話がある。その方に合った方法で口腔ケアをさせて頂いており、食後は口腔ケア、夕食後は義歯の消毒洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の方法がご本人に合っているか検討し、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう支援している。	人形の腹をなでる行為や目的なく歩き回る、言動が乱暴になるなどのサインを捉えてトイレに誘導している。不安からおむつ替えを拒否する入居者には、笑顔で説明し信頼を得てから行うなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜を多く取り入れたり、午前中ラジオ体操を行っている。排便の記録をとり、必要に応じて下剤を使用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様の希望する時間帯に入れるよう声をかけるように努めている。基本的には1日おきだが希望があればいつでも入浴ができる。	入浴前にバイタルチェックを行い、午前中に入浴している。浴槽には滑り止めマットを使用している。拒む人には時間を空けたり、香りで誘う入浴剤を使っている。脱衣時には、羞恥心に配慮した声がけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や廊下に室温計を設置し、快適な温度で休んで頂けるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で一人一人の薬の作用、副作用を把握し、内服時は職員2人でダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる事を見出し、調理や洗濯物たたみ等をして頂いている。買い物やドライブの好きな方はもちろん、外出嫌いな方にも強制にならないよう配慮しながらお誘いしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ、ドライブや買い物などに出かけられるよう声掛けをしている。全体としては、ご家族も一緒に食事に出かけた。	現在はウイルス感染対策で、法人の意向もあり外出を自粛している。家族と通院時に自宅に寄ったり、多賀城のあやめ園にドライブするなど、感染予防対策をしたうえで出来ることに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、盗難などを防ぐため、保管は職員で行っている。使用したい時はいつでも出せる体制にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙のやり取りを行っている方は1名で、電話をかけたい方には随時対応し、希望に沿えるようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないよう、ほとんど模様替えはしない。園の庭には季節の花や、野菜を植えている。また、温湿度、換気にも気を付けている。	全館床暖房になっており、エアコンで暑さを調整している。午前と午後には天窗の自然換気を行っている。食堂から見える庭には、コスモスや松葉牡丹など季節を感じる花々を植えている。木製のベランダに椅子を並べて日向ぼっこをすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には長椅子をおきそこでくつろがれたり、居室に招きあつたりしている様子がある。居心地のいい環境を作るよう心掛けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染みの家具、寝具などを持ってきていただく。写真や遺影なども積極的に持ってきていただき、居心地のいいようにレイアウトして頂いている。	各居室にナースコールが設置されている。自室には、位牌を置き茶と水を供えたり、テレビを見たり、手紙を書く、横になるなど、思い思いに過ごしている。夜間には、定時でのパッドの確認やトイレ誘導などしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる」「わかる」の判断が出来るよう職員のスキルアップが必要である。自分でできる事はして頂けるよう、職員は見守りをし、何でも介助しないことも必要であることを意識付けしている。		